

## 2 市民活動の社会的意義

現在は、生活必需品から趣味や娯楽に関する物まで、あらゆる物が手に入る“豊かな社会”と言われています。しかし、市民がそのような生活を続けていく中で、さまざまな問題が現れてきていることも事実です。

国や県や市などの役所が、そうした問題のすべてを解決したり、まちに住むすべての人の意見を反映したまちづくりをしていくということは、もはやできない時代になっています。

このような時代の中では、市民、国や県や市などの役所、企業のそれぞれが自分たちの果たすべき役割を考え直し、新しいルールや目標を定め、身近な問題は自分たちで解決していくことができるようにすることが大切です。

そうした考え方からも、“公益的社会貢献”を行う「市民活動」を進めていくことは大切で、新しい社会をつくり出す大きな意味を持っています。

### (1) 社会を支える新しい価値を創造します

市民活動は、それぞれの分野で知識や技術を高めて目標に向かっていくような活動や、自分たちの暮らすまちの中で問題を解決していこうとする活動など、いろいろな考え方や手段で迅速に行われます。

一方、市役所の活動は、「部」や「課」といった単位で行われ、利益を受ける人や地域に偏りがないように、あらかじめ決められた予算の中で行われるものであるため、市民活動と比べると時間がかかると言われています。

市民活動団体の大きな利点の一つは、それぞれが自由な考え方で行動し、また自由にほかのグループや市民と連携し、問題点に気づいたり解決したりすることができるという点です。そして、市民活動団体はそれぞれが専門的な知識を持ち、効率的でわかりやすい手法により活動を進めていますので、社会の中でもその役割がだんだん認められるようになってきています。



## (2) 人材育成の担い手として活躍します

高い知識や豊かな経験などを持つ市民活動団体は、会を引っ張っていく“リーダー”がいることで、会員もまた成長し、団体としても発展していきます。そしてその活動を通じ、積極的に社会やコミュニティに関わって社会に貢献する人材を見つけたり、その人の能力を高めていくこともできます。さらに、ほかの団体や企業、それに市役所などと“協働”して活動をしていくことで、お互いに刺激を受け、成長していくことにもつながります。

市民活動団体の積極的な活動は、「明日を拓く人材」を育成していくことにもなるのです。

### (3) コミュニティの持つ可能性を引き出します

コミュニティでは、「どのように暮らすか、どのように住み心地を良くするか」ということがいろいろと考えられてきました。特に災害が発生した時には、地域のつながりはとても重要であり、現在のように社会が大きく変化していく中、コミュニティへの期待は、安全・安心というものを中心として、日々の生活をおくる上でますます大きなものとなっています。

しかし、市民活動が盛んになる一方で、最近ではそうしたコミュニティでの活動が目立たなくなっているようにも感じられます。

そこに住む人にとっての“暮らしやすさ”を求めるコミュニティ活動は、地域に関係なく誰もが参加できる市民活動と、手を取り合ったり、あるいは刺激し合ったりすることで、新しい価値観を見出す可能性を持っています。

このようにコミュニティと市民活動には、お互いの意識を変化させ、いろいろな部分を補い合いながら、その活動を充実させ、広げる作用があります。

したがって、市民活動にはコミュニティの活性化やまちづくりへの多くの市民の参加を呼びかける役割が期待されています。



(4) 新しい「ビジネス」を創造し社会参加を促します

市民活動団体の活動は地域に密着していて、市民それぞれの要望に対応できるなど、新しい公共サービスの担い手としての利点を持っています。

また、民間企業がこれまで気づかなかったような分野でのサービスに取り組むなど、市民活動団体には、新しい“ビジネス”を発掘する「起業家」としての発展も期待されています。

市民活動団体は、こうした事業を起すことで、市民が社会に役立つ活動に参加する機会を広げることとなり、同時に国、県、市などの役所や、企業で対応できないようなコミュニティの要望に応えるビジネスの重要な担い手として、経済面での貢献も期待されています。

3つの分野（セクター）と役割

